



自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

### 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

### 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

### 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム まごころ
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	奈良県奈良市朱雀6丁目6-8
記入者名 (管理者)	中屋 豊子
記入日	平成 20 年 3 月 3 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>入居者がホームの中だけで暮らすことのないよう季節の移ろいを肌で感じ、人間愛の素晴らしさや地域の中で支え合うことの大切さを実感しつつ、豊かな心で暮らして頂きたい。</p>	<p>地域と馴染みの関係を築いていく。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>管理者は一人一人の出来ることの把握に努め、その人らしい生活が充実して送れるように日々の実践に取り組んでいる。</p>	<p>個性を尊重し、できることを継続していく</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>利用者が地域の中で誇りを持って暮らせるようにすることが事業所の努めであり、家族も地域の人々もこうした理念を理解し受け止めて頂けるようになりつつあると感じている。</p>	<p>社会の一員であるという自覚を持つことは自信につながることをこれからも周囲に伝えていく。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>毎日の散歩時などを利用して入居者と地域の人々との触れ合う機会を多くし気軽にホームに来て貰えるよう雰囲気作りを努めている。毎月地域交流の日を用意している</p>	<p>隣近所との付き合いの輪を少しずつ広げていくよう努める。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の活動に積極的に参加しているので地元の人々が入居者の顔を覚えてくれるまでになっている。</p>	<p>今後もさらに交流を深め、より良い関係を保ちたいと願っている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献	入居者やスタッフの力を合わせて、何か地域に貢献出来るものはないかと模索中であるが、散歩の間に地域の高齢者の安否確認をする職員もいる。		今までは外から様子を伺うだけであったが、散歩中に出来ることとして、地域のゴミ拾いや高齢者の安否確認を日課表にして職員間で取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用	H18年の外部評価時に書類の管理を項目毎ではなく、利用者の個人毎に書類を整理するように指導を受けたので、以後利用者の個別ファイルに改善したり、浴室の改造や手すりの増設など実践につなげている		外部評価は運営内容を検証する良い機会である。改善に生かしたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を発足したばかりなので、まだ成果を挙げるまでには到っていない。これからどのような意見を頂けるか期待している。		運営推進会議のメンバーは地域をより良くしたいとの人達で有難い。外部評価を公開して意見を聞く予定。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年度改正時の講習参加や運営推進会議の実施に向けての指導を当事業所と指導を受ける為に行った。今後もサービスの質の向上性に向けて指導や挨拶に行く予定。		市町村や地域包括支援センターへは質の向上の為に相談にいくようにする。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実際に利用したいとの希望者はおられなかったので少々勉強不足ではあるが、問い合わせはあったので再度研修を受けたいと思う。		制度をしっかり理解し、必要な人を支援できるようにしたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連の研修には管理者、職員を派遣して学んでいる。ホーム内では入居者を尊重する心を持って接している。もし、内外で見かける様な事があれば防止に努める事は当然である。		学ぶ機会があれば今後も職員と活用する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所時に十分な説明を行っている。のちのちでも不安や疑問点があれば、その都度説明している。</p>	<p>問題が起きたときに備えて、さらに十分に説明していく用意をしたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営について日頃からどのような不満があるかを職員を通して傾聴するようにしている。改善すべき時は即改善するするようにしている。</p>	<p>入居者は外部者に対して、自分の環境についての不満などを上手に伝えられない場合も多いと思うので、外部者との信頼関係を築けるようにしていきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回、家族宛に入居者の生活状況や体調等の報告をお便りとして発行している。家族の面会時にも状態の報告をしている。</p>	<p>お便りの形式が今のままが良いか検討中</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会や面接時を利用し家族や入居者の近況を報告し合う中から、不満や苦情を探りつつ、運営の改善に役立てるようにしている。</p>	<p>介護相談員に家族会の時、来て頂き不満や苦情を遠慮なく伝える雰囲気を用意する。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営者や管理者は職員や利用者及び家族の意見や状況を把握する事に努めている。管理者は月1回の職員会議を開催し職員の意見や提案を聞き全員で運営に関わるように努めている。</p>	<p>職員の意見を運営者に伝わるように管理者は努力していく。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況の変化に対応するべく勤務時間の調整に常に努めている。入居者が安心して暮らせるように勤務を合わせている。</p>	<p>利用者第一の勤務体制なので職員にしわ寄せが行く日もあり、改善を図りたい</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>グループホームから社内での他の職場への配置替えは、現在まで実施していないが、今後もグループホームの職員は利用者や職員間での連携等も考慮し移動はしない方針。又、離職者を防げるよう管理者や職員の意見を聞く努力をしている。</p>	<p>現在パートで何とか繋いでいる状態なので、社員を1名募集中</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員に対して研修を受講する機会があれば参加を積極的にするよう呼びかけている。介護福祉士資格をとる為の研修会を社内で実施し、参加できる環境作りをしている。	今後も取り組みを継続していく。
20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員が地域の同業者と交流できるように働きかけ、互いに他業者を訪問、交流し、広く他を知ることで自らの質を向上させる努力をしている。	地域の同業者との交流があるので、勉強会など合同で行ったり、どのような連携をしていけるか取り組み中。
21	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は同社内間交流を図り、他の事業所仲間とコミュニケーションを持つことで、互いに理解しストレスを軽減する為1年1回お楽しみ会と称し食事会の場を持ち参加を呼びかけている。	もっと取り組みを強化していく必要がある。
22	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は利用者や管理者及び職員の勤務状況の報告を毎日受けているが、今後は現場で共に働ける機会を設け勤務状況を正確に把握し、共感できる努力をしたい。	職場のより良い環境作りに努めていく。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	居室訪問時、入浴タイム時、散い歩同行時、時間の許す限り個々に話を聞く中で色々な訴えを聞く機会を持って、信頼関係を強める努力をしている。	訴えをよく聞いて、心の底流にある真の思いを受け止めていきたい。
24	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の思いは、面会時の入居者への接し方や言葉の端々から伝わってくるが多い。初期には不安がつきまとうものなので、コミュニケーションには十分時間をかけている。	信頼関係を築くことは大切なので常に努力をしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族がどのような支援を望んでいるかをよく聴き、アドバイスすることもある。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が納得されるまでは体験入所という形式をとることもあり、家族も交えて馴染める工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に考え楽しむ事を出来るだけ心がけており、介護するという立場からではなく、困ったときはお互い様という間柄を築いている。		ご縁があったからひとつ屋根の下で暮らしているので、仲間でもあり、家族のようなものだから、支えあっていく関係になるようにしていく
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の方と本人の様子について話し合う機会を多く持ち、情報を共有している。		家族も仲間なので職員が困ったときは助けて貰っている。支えあう関係の継続を大切にしている。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係は実に様々なので、さりげなく間に入って仲を取り持つこともある。良い関係を保って頂けるよう支援は欠かせない。		家族によっては本人に対して感情に走りやすい傾向があるので、対応の仕方を相談し合って共有していく
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達が訪問された時は快く迎え良い雰囲気でお話出来るように心がけている。又、訪問して頂きたいと切に願っていることを本人にかわって伝えるようにしている。		友人と未永くお付き合いして頂けるよう協力を惜しまない
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士、一緒にレクリエーションしたり、家事をする事で孤立することのないよう互いに助け合う事の喜びを感じて貰えるように努めている。		ドライブや散歩のときなど、気の合うもの同士で組めるよう配慮している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とされる希望者はいないので実施していない。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしさを尊重し思いに寄り添い穏やかな日々を過ごせるように常に本人本位、自己決定に留意している。		職員の一方的な価値判断で対処しないように気配りしていく
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	長年に渡る生き方、感じ方、生活習慣など話をよく聞いている。これまでの生活があって今があることを理解している。		これまでの暮らしについては本人だけでなく、家族や周囲からの情報も貴重なので、しっかり把握していく
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個性を把握し、習慣を尊重して持てる力をどうしたら引き出せるか日々の暮らしを充実していけるか常に本人本位に考えるよう努めている。		現状を総合的に把握して職員間で共有していく
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の身体状況を把握し、その時々に応じて対応し家族の方と話し合いを密にしている。職員会議で知恵を出し合い介護計画を作成し実施している。		月1回職員会議を行い、引継ぎや連絡ノートでは伝えきれないこと、一人一人の考えを出し合い介護計画を立て直している。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	上記の事をふまえて、家族様、医師と連携し計画を立て直すことがある。		常に現状に即した介護計画を今後も作成していく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の日課表に対応状況を記入し、誰でも様子が分かるようにして情報を共有し実施している。		詳しく記録していくように心がける
う				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の要望に応じ、又、家族の要望があれば家族の代わりに病院や美容室、買い物などを支援している。		本人の希望に出来るだけ沿っていく
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	物盗られ妄想時、ご本人の警察協力を求めている際、交番等に出向き話を聞いて頂けるよう要請した時もある。		民生委員や地域包括支援センターやボランティアなどと協働して本人の問題解決を支援していく
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ヘルパーや介護タクシーなど、他のサービスが利用できるよう説明や利用案内をしている。		本人や家族の要望あれば支援する
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在このような必要性のある入居者はいないが本人の意向があればいつでも協働する用意がある。		”
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を尊重し主治医の変更時もスムーズに進むよう、支援している。		”

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の受診に協力しているが、これ以上の治療は困難と断られるケースもある。		"
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	主治医が日常の健康管理の相談にも気軽に応じてくれている		役員に医者がいるので相談しやすい
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した時は入居者の容態を常に教えて貰えるよう連携体制を整えており、早期退院に協力して貰っている。		医療機関との連携は今後も欠かせない
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した入居者があった時に家族とは十分に話し合いを持つことができた。主治医も職員も方針を共有している。		特に終末期については本人も家族も気持ちがゆらぐと思われるのでさらに十分な話し合いが必要
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援	家族や主治医には「できること、できないこと」を伝えており、チームとして取り組むことを準備している。		マニュアルを作成する必要がある
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えはダメージが強いので本人が希望しない限り勧めない。		その時は十分に時間をかけて協働協力をする

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人一人の誇りやプライバシーを損ねないように気をつけて言葉を選び慎重に対応するようにしている。記録なども取り扱いに注意している。</p>	<p>今後も十分に配慮して対応していく。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>その人らしさに合わせて説明をし、納得を引き出せるよう工夫し、希望を表せるよう支援している。</p>	<p>一人一人に寄り添ったケアを今後も心がけていく。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人一人のペースに合わせて、それぞれの1日を大切に生活できるよう支援している。</p>	<p>一人一人の希望に添っての支援を常に優先していく。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>身だしなみなど、その人の好みを尊重して必要に応じて少しアドバイスをする程度にしている。希望に応じて美容院を利用される人もいる。</p>	<p>毎日のおしゃれが喜びになるよう支援する。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>一人一人の力量に応じて調理や盛り付けをお膳立てしている。片付けも自分でしている。それぞれの好みや力が反映されるように献立作りに時々参加してもらっている。</p>	<p>入居者が参加できる場所をもっと増やしていく。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>酒、タバコをたしなむ人はいないが甘いものは皆好きなので、おやつは充実するよう配慮している。飲み物も一人一人に好みを聞いている。</p>	<p>甘いものもほどほどにして欲しい人もいるので困っている。家族や主治医からアドバイスしてもらおうことも必要。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレの声掛けを起床時、外出時、お茶や食事の前に行っている。排泄の記録を取っているがパターンが確定していない。		入居者の排泄パターンをしっかり把握し、その時々にあった支援をし入居者が不快な思いをしないように努める。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は一人しか利用できないにもかかわらず一番目を希望される人が多い。やむを得ず順番表を作成して以来、皆納得されてそれぞれの入浴タイムを楽しまれている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を把握し、その時の状況に応じて対応しているので安心されている。不眠症の入居者がいるので眠くなるまで話し相手や手仕事に付き合うことがある。		入居者の様子を常に観察し、その時々状況に合った支援をする。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれが趣味や特技を活かして、活動している人もいるが、何をするのもしんどいと尻込みする人もいる。やる気の無い状況の時は時間をおいて誘いかけるなど気晴らしできるよう支援している。		日々を充実して過ごして頂きたいと願っているので常に出来そうなことがあるかを考えている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	最近はお金を持つことを忘れてしまっている人もいる。持っても持っていないと思込んでしまっている。又、買い物で同じものばかり買い求める人もいて持つと不安が募るケースが多い。		お買い物の日を個人別に決めて実践してみようかと考えている。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブ買い物など、一人一人の希望にそって行っている。歩くのはイヤだけどドライブならと云われればドライブにお連れしたり、自己決定してもらっている。		戸外に出掛けられる機会をつくっていく。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に数回家族会を開き、家族とともに出掛けられる機会をつくっている。日常で行きたい所があるかどうか、それとなく聞き出しておいて、誘い合って出掛けるよう努めている。		一人一人の行きたい所が段々少なくなってきたようなので、情報を多く提供するようにする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って電話をかけている(自分でかけられる人は少ない)手紙は職員と一緒に入居者と郵便局まで出しに行っているが、宛先など段々書けなくなってきているので代書することもある。		今後も支援していく。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問できるようにしている。本人が接待場所を決めてくれている。職員が家族の替りにお茶をだしたり会話に加わったりしている。		今後も支援していく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常的に尊取を持って接するよう説いているので職員は十分に理解している。		身体拘束の必要性がある時は家族に立ち会って貰ったり、了解を得る必要がある。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアに取り組んでいる。居室に鍵をかけていた入居者が鍵をかけなくなってきた。		状況、状態の変動があるときにも関わるので今後も取り組んでいく。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人一人の居場所を常に確認している。安全についても一人一人の行動パターンを把握して対応している。		職員業務の重点項目としていく。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は自己管理できる入居者には自己管理してもらっているが注意して見守っている。		誤飲される人はいないが、いつどこで事故となるやもしれないので注意を続ける。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒しやすい人、外へ出たがる人などそれぞれの気分や体調を常に把握し事故防止に努力している。		誤飲される人はいないが、いつどこで事故となるやもしれないので注意を続ける。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	訓練は何度もしないと身につかないと思うので、イザという時に備え職員の能力をテストする必要がある。		救急救命や防災知識の学習を定期的に行っている。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を行っている。日頃から地域の人々との交流を積極的に行っているのは災害の時に相互に役立てるということも大きい。		継続していく必要がある。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族に日頃の身体状況を提供し、家族としっかり話し合っている。リスクについても主治医と連携して、家庭と同じように自然体で暮らせるよう支援することで家族は納得されている。		家族が納得していても、本人の希望を第一にしたいことも伝えていっている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は入居者の変化に常に注意しており、些細な変化でも、家族へ連絡、判断を仰ぎ、記録をして情報を共有しているので対応しやすくなっている。		入居者の変化に常に注意して、ささいなことでも報告、連絡、相談をする。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変わるときは主治医より説明を受けている。服薬後の様子観察をして必要であれば主治医に報告している。		今後も取り組む。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	散歩やレクリエーション、家事にお誘いし体を動かすことで腸の働きがよくなるように支援している。好みも取り入れて水分補給を心がけている。運動器具を利用する日もある。主治医と連携、服薬指導を受けている		今後も取り組む。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝、夕の口腔ケアは介助しており、昼もうがいを勧めている。歯科と連携していて、衛生士の指導のもと、口腔内の清潔に力を入れている。		今後も取り組む。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の口腔状態、体調に配慮、献立に柔軟性を取り入れている。1日1200カロリー以上を確保、昼夜を通して1日の水分量を記録して、摂取量の少ない人には好みを聞いて支援している。		一人ひとりの好みの食事や水分摂取量が違いすぎて、職員が対処しかねることも多いので、改善の余地は多い
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを置いている。昨年に保健所より実地指導を受けて、実行している		利用者や職員を守るには予防第一に心がけ、手洗い、うがいを励行していく
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫は週1回のアルコール消毒、調理用具の殺菌、消毒はハイターで毎日行い、衛生管理に努めている。食材はつねに鮮度を重視して購入、使用するなど食品の安全と管理に努めている。		中国製の餃子の問題もあったことから安全と確認されるまで、食材の購入に注意していく
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物内外に季節の草花を絶やさないようにしている。利用者や面会の家族も楽しんで下さるし、ご近所さんからもよくお花を頂いているので、親しみやすい雰囲気は具えている		雨の日でも安心して出入りが出来るようもう少し工夫していきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖かい日は玄関を開放して、自然の風や光を取り込み、季節感を大事にしている。トイレや居室にも不快な匂いのないよう気配りしている。		現状に満足せずさらに工夫していきたい
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の作品を飾ったり、季節に合った写真を展示して、話題作りの場所にしたり、日向ぼっこをしたり、思い思いに過ごせて共有できる椅子を置いて工夫している		"

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や持ち物を備えているので、居心地よく過ごせている。安全に問題のあるものについては、本人の納得を得てから、家族とも相談して取り替えることもある		本人の力量に応じて変えていかざるを得ない時もくるので、説明していく
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日、換気や室温のチェックをしている。室温は利用者の好みに、ある程度合わせているが、外気との差が開きすぎないように配慮して、こまめに行っている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要と思われるところには手すりを増設、して、安全を確保し、出来るだけ自立した生活が継続できるよう配慮している。居室にじゅうたんを敷いたことで、転倒が激減した利用者もいる		今後も安全に配慮した環境作りを工夫していく
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗を予防するには馴染んだ手仕事や、安心して取り組めることなどを、さりげなく近くに持ってくると効果がある。自分のことでは混乱しても、人のことは見えていたりするので共同生活の長所を利用して、その人にとって良い環境を毎日、模索し工夫している		分かること、出来ることが継続できる環境作りを工夫していく
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	居室に直結しているベランダは、取られ妄想の引き金となるので、活用できなくなっている。建物の外回りは外気浴や花いじり、庭先での食事などに活用している。		いつか サンプルームが作れたらいい

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		、	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- \* 一人一人の力量に合わせた散歩をほぼ毎日行っている。季節それぞれの光と風を肌で感じて頂いている。
- \* 地域の人々との交流する日を毎月第二木曜日に開催し、ハーモニカクラブの協力で一緒に歌を歌ったり演奏を楽しんだりしている。
- \* 希望があればいつでもドライブにお連れして、好みの食材の買い物や季節の花めぐり、コンサートを楽しんでいる。
- \* 口腔内の清潔に力を入れており、個々の力量に合わせたケアをしている。